

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年8月3日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4691700019号
法人名	医療法人松風会
事業所名	松風の里
所在地	鹿児島県志布志市志布志町安楽52-3 (電話) 099-472-0911
自己評価作成日	平成24年5月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節に応じた行事を、各月ごとに企画し、またその様子を2ヶ月ごとのお便りや、壁紙にすることで、家族や知人の面会時、地域の方々へ伝えられるようにしている。同敷地内に医院が併設されていることにより、医療との連携が図りやすく、また医院直通の電子メールにより利用者の細かい状態報告が随時行え、緊急時の対応もスムーズに行える体制になっている。松風の里の周りの環境は学校やスーパー、商店街が並び、利用者が子供達や地域の人とのふれ合いがいつでもできる環境にあり、少しずつ地域密着型のサービス事業所として地域に根ざしている。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年6月6日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

志布志市街地の利便性の良い地に開設されたグループホームである。敷地内にある法人の医療機関との連携が密にとられ、看護師の有資格者も多く利用者の健康管理はもちろんのこと重度化・看取りにおいても体制が整い、最期まで安心して暮らせるホームとして運営がなされている。外出の機会も多く、職員体制の工夫により天候と利用者の心身の状況を見極めドライブを兼ねたふろさと訪問や外食に出かけ、出来るだけホームに閉じこもらない生活を支援している。排泄も安易におむつ使用はせず生活レベルを上げることに努め、トイレ誘導や職員手作りの布おむつの工夫や個々に合った排泄形態を見極めることで改善に導いている。

長年医療も担いながら地域との交流を行ってきた法人であることから地域からの信頼も厚く、自治会への加入や地域行事への参加、ホームの行事への招待などで交流の機会も多く、避難訓練にも参加して頂けるなど災害時の協力体制も築かれている。職員の離職も少なく、利用者とのなじみの関係が築かれその人らしい生活が送れるように心身の活性化を図るための様々な創意工夫がなされているグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開設当初から、事業所全体の理念を基に各ユニット事に理念を作成し毎朝申し送り時、唱和している。またユニットでは一人一人を尊重、自由な生活が送れるように理念を具体的なケアに繋げている。	開設時に職員全員の意見を集約して作成している。理念は毎朝夕の申し送り時に唱和し、また毎月の職員会議でも確認することがあり、理念の共有と実践に繋げている。	
	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に入り、回覧板や運営推進委員の地域の方々からの情報により地域の行事を知り参加している。また、芋煮会を行い地域の方々に参加して頂き交流をおこなった。	自治会からの回覧板は、利用者も散歩がてら職員とともに持っていき日常的な近所付き合いを行っている。また、地域の月見会・運動会見学に出かけたり、ホームの行事に地域の方々を招待するなど交流の機会が多い。	
	3	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	松風の里便りを毎月発行し、行事内容や活動状況を知って頂き家族会の中でも説明している。特に今年度は芋煮会やあくまき作りなど新たに取り入れる内容を地域の人に伝達し参加してもらい、意見交換をサービスの向上に繋げている。	/	/
	4	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の方は地域の人が多くっており、芋煮会や食事会・団子作り等施設の行事参加が年々多くなってきた。災害時の対応については避難場所の確認などを話し合った。会議に参加されない家族の方には会議内容を郵送で知らせたり面会時に伝達した。ホームの取り組み状況は、松風の里便りや担当が郵送するお便りの中でも知らせた。	地域住民代表・民生委員・町内会長・婦人会・近隣住民・行政・家族代表の幅広い分野からの参加を得て2ヵ月に1回行っている。ホームの現状報告、行事報告・外部評価の結果報告と改善についての意見などをもらうなどしている。また、防災訓練に参加してもらい、安全対策やサービス向上に活かされた話し合いも行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所の方にも出席して頂き、事業所の取り組みを伝えると共に意見を聞き次回に繋げている。また、キーパーソンが亡くなり、身寄りが無くなった場合の契約者について市民課や福祉課にこちらから出向き資料をもらう等し連携を図っている。	市町村担当者とは運営推進会議を通じて事業所との関係を築き、それ以外でも連携を図ることで協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関し、カンファレンス時に勉強会を行いスタッフ全員が周知出来るように努めている。また、日々のケアの中で個々に応じた工夫（クッション・付き添い見守り等）をスタッフ一人一人が試行錯誤し身体拘束排除に向けて取り組んでいる。玄関には鍵はせず、利用者の行動を尊重し、身体拘束委員会をカンファレンスの時間に開催している。	契約書に「暴力や虐待及び身体的精神的拘束を受けないこと」と明記し、「身体拘束排除宣言」も掲示して拘束のないケアの実践に取り組んでいる。また、毎月身体拘束委員会による検討会も行い、職員全員が拘束について正しく理解できるよう取り組んでいる。ホーム内には死角も多いが、職員の見守りと連携で利用者の行動を制限することなく安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を開きスタッフの意識を高め、また言葉使いや声のトーンまでスタッフ間で注意し合えるよう努めている。職員間でお互いに気を配り、虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、その資料やパンフレットを基に勉強会を開きスタッフが周知し、制度についての知識を深める事が出来るよう努め、また支援に繋がるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書、重要事項説明書・看取りケアをファイルにしたものを用いて家族に十分な説明を行い又、疑問点や不安な点はその都度対応し、安心して生活して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理箱の移動や、家族への意見を求めてもなかなか意見が出ないので、要望を含めて用紙に書き留める事にし、対応策まで記入するようにしている。また、担当者会議の中で必ず家族の要望を聞くようにしている。意見の収集方法を第三者委員会の方に同意をもらい、外部者を含めて間接的にも意見が受け入れられる方法をとった。	日常の面会時、電話連絡時、担当者会議時などに要望や意見を聞き出すように努めている。また、第三者委員を設置して外部からの意見も受け入れられるようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のカンファレンスの中で意見交換を行い、また出された意見は理事長・理事・病院代表者・松風の里代表者が出席する運営会議にて報告・検討し今後の運営に反映されるよう努めている。	毎朝夕の申し送り時、毎月のカンファレンスで行事やケアについての意見や提案が話し合われている。離職が少なく、職員間のコミュニケーションが図られてサービス向上に向けた提案も良く出ている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修・勉強会・やむを得ない場合の残業に対しては時間外手当が出る。また、研修案内などがきた際には職員へ伝達し各自が自主的な参加を行うようすすめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入職時にオリエンテーションを行い認知症や理念、運営基準について説明を行っている。また、朝の申し送り時小勉強会を行ったり、カンファレンスの中で各スタッフのケアの見直しや、悩みなど意見として出しみんなで検討している。経験年数に応じ、実践者研修やリーダー研修を受講し、また他の研修も積極的に参加するようにすすめている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>曾於地区ケアマネ役員の中でケアマネ間の交流を深める事が出来た。志布志では役員をした事により研修会を開催し、ネットワークづくりになり、サービスやケアプラン作成の質をレベルアップできる機会となった。ケアマネ総会があり、他の施設の方と意見交換しながら、コミュニケーションを図り、サービスの質の向上に繋げている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネ、スタッフが自宅や施設を訪問し、情報収集を行う中で、本人の言葉にも十分に耳を傾け、また不安なこと要望など、伝えやすい環境作りに努めている。また、入居前にホームを見学して頂き、スタッフも温かい気持ちで受け入れ、安心して入居出来るように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時は、家族の方の言葉にも耳を傾け、入居に対する不安や要望を伝えられる環境作りに努めている。また、面会時にはスタッフから声を掛け、その都度不安なことなど、相談を受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問、面談し情報収集を行う中で、本人や家族の意志も尊重しながら、必要なケアを見極めている。また、サービス担当者や担当ケアマネと連絡調整を行い、情報を受けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かしたり、過去の経験を生かし、洗濯物をたたんだり、料理の手伝い（野菜の皮剥き・味見・盛り付けなど）を、スタッフや利用者同士コミュニケーションをとりながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加への声掛けを行い、一緒に楽しんで頂き、また月に1回「松風の里便り」を郵送したり、2ヶ月に1回担当スタッフが最近の様子を便りにし、郵送する事で本人の様子がわかるようにしている。また、体調の変化や怪我があった場合、その都度キーパーソンの方に連絡し報告・説明を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問やお墓参りの実施、理髪店や美容室は、行きつけの所に行って頂き、世間話をする事で馴染みの場所や人との交流を大切に、面会に来られた際は、写真を撮ったり、居室でゆったりと話を頂き、関係が途切れないようにしている。	日常の会話や言動で利用者からの訴えや思いを把握し、ふるさと訪問や墓参りに連れて行くなどしている。特に墓参りを日課にしていた利用者もいることから、継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の性格も考慮し、席を考えたり、口論になった際はスタッフが間に入り、お互いが不快な気持ちを引きずらないようにしている。また、利用者が閉じ込まれないように、ティータイムにリビングに誘い、他の利用者との交流がもてるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた場合には、可能な限り御通夜や葬儀に参加している。また、家族の方が訪問に来られた時には、故人を偲びながら話をし、最近の様子をたずねたり、困ってる事がないか相談・支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族との会話や、アセスメントを基に、その人らしい暮らし方が出来るよう把握に努めている。特に食事に関しては、食べる意欲を失わないよう、試行錯誤しながら提供したり、経管栄養の方でも、医院と連携しながら、少しでも経口摂取出来るように努めている。意思疎通の困難な利用者については、特に家族とのコミュニケーションを図りながら、介護度が重い方でも、その人らしい生活が送れるように、本人の立場になって検討している。	利用者それぞれに担当を決めており、離職が少ないためなじみの関係が築かれ、会話や行動により思いを把握し本人が安心して過ごしやすよう検討している。また利用者個々の情報は申し送り時やカンファレンスで職員全員が共有できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話や情報収集した中で、利用者が歩んできた人生を深く知り、1人1人を尊重し、自尊心を傷付けないような声掛けを行うようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	音楽を聴いたり、テレビをみたり、スタッフとトランプをするなど、利用者が楽しく穏やかに過ごせるようにしている。また、その人にあつたお手伝いを無理なくして頂けるよう、状態の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度カンファレンスを行うだけでなく、問題が生じた場合には、本人・家族と担当者会議を開き話し合ったり、スタッフにてショートカンファを開き、BS法を用いたりした話し合いの結果を、カンファレンスBOOKに記載し、現状にあつた介護計画に変更し、モニタリングを行い評価している。	ふるさと訪問・墓参りなどのなじみの関係継続や公文式療法・ピアノ・ピアニカ・テレビ・新聞・温泉・外食などの楽しみごとや好きなことをできる時間を持てるよう個々に応じて個別の介護計画を作成している。毎月担当職員がモニタリングを行い、月末のカンファレンスで見直しの必要性を検討している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化は経過記録やケアチェック表の中の特記事項でおさえ、月末の各担当がモニタリングを行い、ケアマネ自身のモニタリングと合わせ月一回のカンファレンスで検討している。特に変化があったり、気づき・行動障害が問題となる場合にはショートカンファを行い、今年度はスケッチブックを利用して新たな情報や解決策を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の言葉の中からニーズを探り実行に移した。景色や家が何処にあるのか、以前していた仕事など言葉とて発せられる中、行ってみたい所食べたい物等のニーズをとらえることが出来た。景色や以前行っていた所を写真に撮りアルバムや廊下に貼り出すと腰痛もなく廊下を歩ける姿も真のニーズをキャッチ出来たからである。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の参加を出来るだけ多くして頂けるよう声掛けを行っている。消火訓練は年3回の参加を毎回してもらっている。芋煮会やサンフラワークルージング、あくまき作り等前年度より地域の方の参加が多かった。特に津波についての話し合いは地域の人と運営推進会議の中で検討し松風の里の建物に非難する事など決めた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状態報告や連絡事項は、口頭やメールにて行う事で医院との連携を図り、情報の共有化に努めている。受診の際は、有資格者が付き添っている。また、眼科や歯科受診については、本人や家族の希望される医院などに、連絡し受診が出来るように調整し、適切な医療を受けられるようにしている。	母体法人の医療機関とは24時間で連携が図られており、他科受診についても職員が同行してかかりつけ医との関係を築いている。ホームに看護師も複数名常勤しており、利用者の健康管理が密に行われて家族の安心にも繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常があった場合は有資格者への連絡をし、必要があれば主治医へ連絡し受診している。利用者の変化はその都度メールで報告し急を要する場合は電話（内線）連絡を介護職員も看護師も出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	状態変化のある場合は主治医から家族に病状説明が受けられるように配慮し、入院の際は看護師が付き添いサマリーやケアプランと共に利用者の日頃の様子を詳しく医療機関に伝えることとしている。入院中は時々面会に行ったり電話で状態を把握しながら連絡調整を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りケアに取り組んでいる事を説明している。利用者の状態の変化に合わせて、主治医と家族を含めた検討を何度も行いながら、今後の治療方針を主治医から説明してもらっている。看取りケアに入った場合は、夜勤体制を有資格者を配置とし3人体制とする場合もある。	重度化・看取りに関する指針を作成して入居時にホームの方針を説明している。これまでも見取りの実例は数回あり、夜勤時に介護職員が不安なく勤務できるように看護師の有資格者を配置するなどして体制を整えて臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の中で健康チェック（バイタル測定）について職員に説明したり、急変や事故発生時の対応は連絡先や手順が分かるように、電話のあるところに貼ってある。医療面については看護師が中心となり、利用者の変化や気づき、主治医の指示などボールペンの色を緑に変えて日頃から職員が目につくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災、避難訓練の際は必ず地域の方の参加を促し、消火栓のある場所、施設内の案内や徘徊する人の利用者の方の顔を覚えてもらったりしている。職員は施設内の訓練だけでなく消防署主催の消火栓操法大会に参加し、参加するまでは参加チームだけでなく全職員が練習し意識を高めた。</p>	<p>年2回夜間想定で避難訓練を行っている。地域の方々にも参加してもらい、気づきや講評をもらっている。また、緊急連絡網にも登録させてもらっている。他にも全職員が夜勤担当として実技を兼ねた自主訓練も行っている。居室の入口に利用者の身体状況及び退室の区別がつくように赤と青の布で表示するなど工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室入り口の窓に対してはカーテン設置をし、トイレの仕切りのカーテンについては、アコーディオンカーテンを設置しプライバシーの保護に努めた。高齢者の尊厳については新人の方には認知症ケアと共に詳しく説明を行い、また実践の中でもリーダーがつき教えている。	朝のミーティング時に接遇についての勉強会を設けることもあり、人格を尊重した言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな小さな内容でも本人や家族の意見を聞き入れ、なるべく要望に沿えるように十分な説明を行い利用者の意志がかなうように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別で入浴時間を変えたり、希望にそって買い物に行ったりと利用者のペースに合わせている。職員のペースを優先するのではなく利用者のペースに合わせて買い物や散歩でも本人の意志を確認して行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の希望があれば美容室に行き、又スタッフで理容師の資格を持っている人が散髪したり、髪型の要望を聞いたりしている。また、近くの洋服屋さんに行き好きな洋服を選んで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事摂取量や水分量のチェックを行い、個人によって献立の変更や形態を変えて栄養状態が悪化しないようにしている。野菜の皮むきや配膳など食事の準備の手伝いに毎日参加して頂いている。時にはホットプレート等を用いて利用者の近くで材料を見ながら臭いを感じ食事への関心や食欲を高める工夫をしている。	菜園の収穫を楽しんだり、ちまき作りや団子作りなど利用者に教わりながら行っている。ときにはお弁当持参で外出レクリエーションに出かけたり、外食（回転寿司・ファミリーレストランなど）を楽しむこともある。クリスマスの食事会には多数の家族が参加して利用者との食事の時間を過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況や水分量は一人一人記録し細かく把握している。時に糖尿病のある利用者に対して、自分たちでカロリー計算をしたりして血糖のバランスを計っている。水分については、出来るだけ水分摂取に努め、ひっかける人にはゼリーやトロミを使用しながら水分摂取をすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後どうしても口腔ケアの出来ない人は入浴時や穏やかな表情の時にやっている。口腔ケアを行いながら歯の状態を観察し異常がある場合、特に抜歯がある場合などは主治医に相談し歯科受診に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを知り、トイレ誘導を行っている。尿意・便意の無い方にもトイレで座って排泄を介助している。おむつの工夫も個々で行い、その人に合ったものを作成している。失禁してもすぐにオムツではなくトイレやポータブルトイレでの排泄を実施している。下剤服用後は尿取りパットを使用するが、排便があったら尿取りパットを外しトイレ誘導して、布パンツで気持ち良い生活をして頂けるようカンファレンスやミーティングではいつも話し合っている。	排泄面での生活レベルをあげたいとの方針で、職員手作りの布おむつの工夫や個々の排せつ形態の見極めなどでトイレでの排せつや自立に向けた支援を行っている。入居後に改善された利用者も多く、本人・家族の喜びや職員のやりがいにも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用しながら、朝夕の申し送り時排便の無い方を伝達し便秘しないようにしている。腹部マッサージを行ったり、乳製品を飲んで頂きどうしても排便の無い方には主治医に相談して下剤や整腸剤処方して排便コントロールを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	3回/週の入浴を基本とし、浴室でのプライバシー確保に配慮している。又好みの音楽を楽しみながら入浴して頂いている。利用者の方の気持ちをくみ取り、入りたくない方に対しては時間をずらしたり、ゆかちゃん人形を利用したりして気持ちよく入浴して頂けるよう工夫している。	個々の希望により毎日でも可能である。また、個別支援で希望により温泉に連れて行く利用者もいる。特浴の設備も整っており、重度化しても対応が可能である。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠出来ない方には日中出来るだけ起きて頂いたり、自宅での生活習慣を知りリビングで職員と過ごされ自宅で寝ていた時間に居室へ誘導するなど、不安感を与えないようにしている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に認知症の新薬服用の際は、主治医に状態報告しながら観察し、記録に残して申し送りでは深く状態の変化を伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いつも散歩していた景色のところまでドライブや散歩をし、又アルバムにし職員との会話を楽しんで頂いている。公文療法を利用して会話の機会を多くし、昔の歌や話題を出すなど楽しみの機会としている。職歴を生かし建築現場に向いたり、いつも買っていた団子屋さんに行ったりしている。好きな物を食事に取り入れ食事摂取量を増やしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行動障害の中で、言葉の端々に出てくる場所に行ってみたり、自分の意志を伝達出来ない方や介護度の重い方でマーゲンチューブが挿入されている方でも、気分転換が出来るように配慮している。行きつけのパン屋さんに行ったり、山に出かけ椎茸取りを楽しんだりしてる。	日常的に天候や利用者の体調をみて散歩や買い物、ふるさと訪問などのドライブに出かけている。また、季節を感じる事ができるように花見や果物刈り、芋掘り、祭り見学などにも出かけたりにしている。毎年、大型フェリーでのクルージングも楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理の出来る方は現在いないが、おもちゃのお金を使用し、お金を持つことで安心感がえられ、落ち着かれるので利用している。職員が金銭預かりをして必要な際に預かったお金から支払いをしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>面会の少ない方や遠くにいる方に対しては定期的に施設に電話をしてもらい、手紙は担当の職員が2ヶ月に一回便りを出し、松風の里便りは毎月郵送している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎月の行事予定を廊下に貼り出していたが現在は正面玄関に作成し、家族の方の目につく場所に移動した。また、季節に合った写真や壁飾りを毎月担当を決め作成することにした。リビングや浴室では音楽を流し気持ちよく過ごせるようにしている。</p>	<p>行事の際の写真を廊下に貼り、見る楽しみも味わえるように工夫している。また、全盲の利用者が自由に居室との行き来ができるよう手すりに鈴や玩具をぶらさげて工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングではテレビを見らる方、ピアノ・音楽・新聞を楽しまれる方などそれぞれが好きな事をして過ごせるように配慮している。また、席の配置もよく話される方を近くに利用者同士の会話も楽しめるようにしている。また、浴室前では音楽を聴いたり、日向ぼっこをしたりと、思いのまま過ごせるような時間も設けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と話し合い、家族の写真を飾ったり、馴染みの家具や本人の使いやすい家具を置くようにしている。また、音楽が好きな利用者はラジカセを、テレビが好きな利用者はテレビを持ち込んで頂き、その人の嗜好に合った居室の環境作りをしている。	音楽好きな利用者の居室にはCDラジカセとたくさんのCDが持ち込まれている。他にも家族の写真や装飾品などで居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりが設置してあり、目が不自由な利用者でも、リビング入口までは来られるように整備している。また、手すりを使用し、起立訓練・歩行訓練を行い、残存機能の維持・活用に努めている。トイレの場所も大きく表示し、わかるようにしてある。		



**V アウトカム項目**

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 松風の里 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 松風の里 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない